

生態系保護地域内の登山道は……？

令和元年度 朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議(春季)

今年の夏山シーズンを迎える6月8日(土)に、鶴岡市朝日中央コミュニティセンター(すまいる)において春季の巡視員会議を開催しました。

添谷計画課長より「近年山形県でニホンジカの日撃情報が多発していることを受け、今年度より朝日山地森林生態系保護地域内のモニタリング調査にアコースティックモニタリング(※)調査を加え、生息状況調査の強化を考えている。」と挨拶がありました。

続いて、今年度新規登録者5名と継続更新者26名に巡視員委嘱状と巡視員証の交付の後議事に移りました。今年度の巡視活動計画(案)の提案、生態系保護地域の看板補修・モニタリング調査結果・スノーモービルの乗り入れ・天然林への誘導手法・ニホンジカ目撃情報などの報告の後、質疑応答に入りました。

今回の会議では、環境省が主体となつて行う朝日連峰保全協議会が、登山道の管理・整備を行うものの、その実態として各山岳会やボランティアによるところが大きく生態系保護地域内でもやり方仕方が様々で、昨年秋の巡視員会議で一部の登山道を見て頂いてご意見を伺いたいという提案から、合同パトロールを計画した旨の報告もありました。

また、先日の朝日連峰保全協議会で、「平四郎沢の吊り橋が落橋し旧道を通る事となることから注意喚起が必要だ」との補足説明もありました。

天然林への誘導手法については、今年度庄内森林管理署で10箇所の本数調整伐を計画しており、入札結果次第で事業実行されることになるとの報告もありました。



アコースティックモニタリング調査



合同パトロールの様子



合同パトロールに参加された環境省職員の皆様

長時間に渡る会議でしたが、笠井所長の閉会の挨拶で終了となりました。

※アコースティックモニタリング:ニホンジカのモニタリング手法の1つで、雄ジカが発するハウル(咆哮)を集音器で録音し、個体数指標としてカウントする方法で、音による個体検出であるため、目視やカメラ撮影で得られない個体情報を把握することが出来る。

東北森林管理局
朝日庄内森林生態系保全センター